

(7) 津駅周辺道路空間の検討状況について



津駅周辺道路空間の検討経緯

令和2年5月20日道路法改正

- ・民間と連携した新たな交通結節点づくりの推進
- ・地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築が可能に

令和2年7月から令和3年3月まで

津駅周辺道路空間検討会(4回)
メンバー: 県、津市 オブザーバー: 国

津駅周辺空間の基本的な方向性の取りまとめ(令和3年3月29日)

令和3年7月から令和4年3月まで

津駅周辺道路空間検討委員会(3回)
委員: 有識者、交通関係者、経済関係者、行政
事務局: 国、県、津市

津駅周辺道路空間の整備方針の策定(令和4年3月24日)

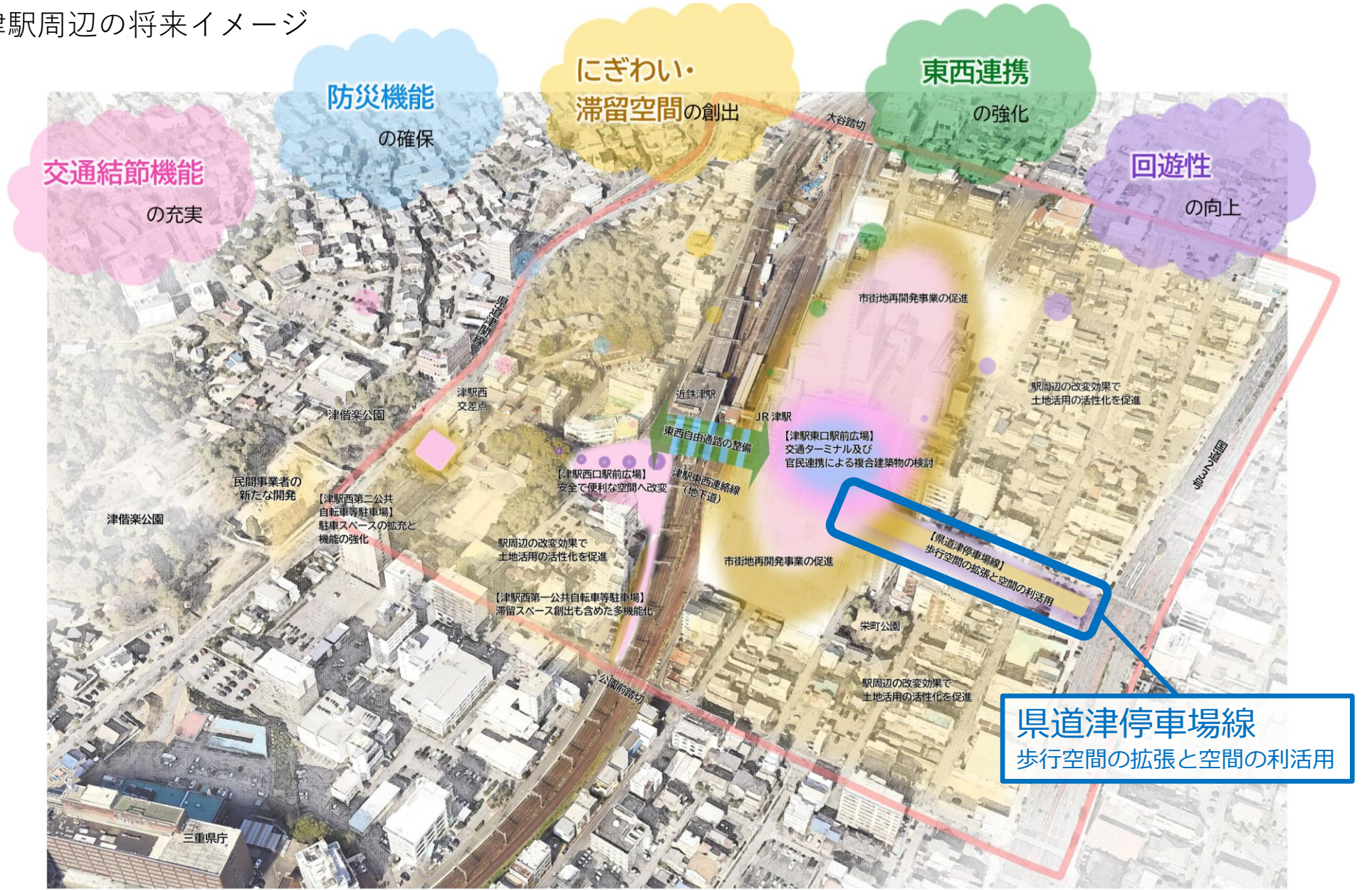
令和4年7月から

津駅周辺道路空間再編検討委員会
委員: 有識者、交通関係者、経済関係者、行政
事務局: 国、県、津市

津駅周辺基盤整備の方向性(ビジョン)の策定(津市) 令和7年8月公表

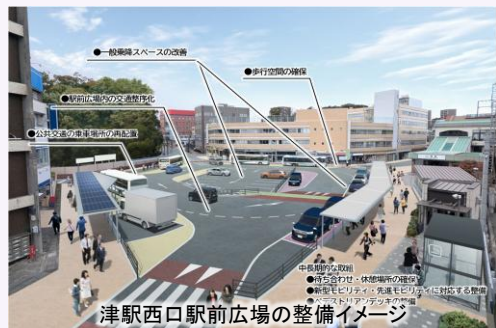
津駅周辺基盤整備の方向性（ビジョン）

津駅周辺の将来イメージ



西口駅前広場

【市】西口駅前広場の詳細設計を実施



東口駅前広場

【国】交通拠点に求められる機能の必要性をふまえた機能強化の方向性を整理（バスタプロジェクト）

【市】交通ターミナル上部空間の活用等にかかる官民連携導入可能性調査を実施



整備コンセプト【西口】
市民の安心・快適な移動を支える西口

整備コンセプト
↑
様々な人が東西を行き交い
交流が生まれる

津駅

整備コンセプト【東口】
交通結節機能が強化され
広域から人が集まり
にぎわいや憩いの場がある東口

《東口の一部》
にぎわいや憩いの場

津停車場線

伊勢街道

国道23号

東西自由通路

【市】東西自由通路の位置について
鉄道事業者と協議



県道津停車場線

【県】歩道拡張後の活用主体・活用方針等に関する聞き取り

【県】駅周辺の公共交通の補完のため、
県道等に路上カーシェアリングを
配置する社会実験を実施



県道津停車場線における社会実験

R3 交通への影響調査

歩道拡張に向け、車線を6車線から4車線に減少させ、交通への影響を確認



R4 賑わい創出の調査

歩道を拡張し、その空間にベンチやテーブル等の設置、キッチンカーの出店等



R5 滞留・回遊性の調査

県道だけでなく近隣の栄町公園を使用し面的に社会実験を実施



R6,7 県道への新たな交通手段導入可能性調査

県道において、路上カーシェアリングの社会実験を実施



成果

・車線数減に伴う交通への大きな影響（速度低下や滞留）はなかった
⇒ ほこみち導入に向けたハード整備の可能性

・道路空間再編により賑わいの創出が図れた
・実験エリアを面的に広げた結果、滞留・回遊性の強化が図れた
⇒ 津駅のポテンシャルの高さとニーズの把握

・路上カーシェアリングは、公共交通機関を補完する交通手段としてのニーズは非常に高いことが確認できた
⇒ 交通結節機能強化施策の1つとして取り込める可能性

社会実験により賑わいの創出が確認できたが
継続した賑わいの創出が望まれる！

R8～ 拡張後の活用方法等に関する調査

活用主体の掘り起こしや活用方法の検証などを目的とした**社会実験を実施**

■ 継続した賑わいを創出できるハード整備（歩道拡張案）



歩道拡張案を確定するには・・・

- ・ 拡張した空間を **どのように活用** するか
⇒ 人が来たくなるイベントや日常の活用方法 ⇒ **活用主体の選定**
- ・ **沿道地域** への影響はどうか
⇒ 地域と一体となった運営 ⇒ **地元住民や店舗との調整** などが必要

■ 継続した賑わいを創出できるマネジメント（民間活力）

賑わいの創出には・・・

民間活力が必須で、それを**継続するにはマネジメント主体が必要**

関係者への聞き取りでは・・・

現状では商店街組合等による活用の声はなく、「出店の希望はあっても、**マネジメントまでは難しい**のではないか」との意見もあった。

検討課題

- ・ 活用主体の掘り起こし ⇒ **組織化・自走化**
- ・ 活用方針の決定（関係者との調整）
- ・ 歩道拡張空間に必要な機能の決定

令和8年度

■ 社会実験の継続

- ・ 活用主体の**掘り起こし**
- ・ 歩道拡張後の活用方針検討
- ・ 拡張した空間に必要な機能の検討
- ・ 日常的な公共空間利活用による機運醸成

道路空間の活用イメージ



出典：「ソルトレークシティ道路類型」草案（2021年6月）

今後の予定

■ 社会実験の継続

- ・ 活用主体の**組織化、自走化**に向けた支援
- ・ 拡張した空間に配置する機能の検討
- ・ 日常的な公共空間利活用による機運醸成



活用主体による清掃活動

出典：東京都足立区HP



- 歩道拡張の詳細設計
- デザイン検討



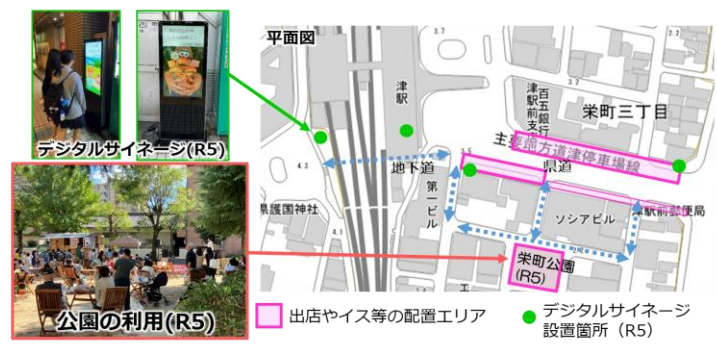
<目標>

歩道拡張工事 ⇨ 民間主体による道路空間の活用 ⇨ 賑わいの継続

まちづくりの方針をふまえた道路空間の再編検討を国・市と連携して進めます

社会実験の概要

- 目的** 道路空間における賑わいの創出及び課題・ニーズを把握
- 内容** 平日：津駅周辺のオフィスワーカーのランチ
休日：ファミリー層のランチと家族向けイベント
- 期間** R4：10/19～30、R5：10/11～22（各日10時～18時）



成果

- ・車線数減に伴う交通への大きな影響（速度低下や滞留）はなかった
⇒ ほこみち導入に向けたハード整備の可能性
- ・道路空間再編により賑わいの創出が図れた
- ・実験エリアを面的に広げた結果、滞留・回遊性の強化が図れた
⇒ 津駅のポテンシャルの高さとニーズの把握

今後の検討課題

継続した賑わいの創出

⇒ 活用主体の掘り起こし、活用方針の検討

延べ来場者数

R4：約6,500人
R5：約12,000人 (対前年比1.85)

■キッチンカー・物販の出店

R4：23店舗 R5：32店舗
(延べ50店舗) (延べ94店舗)

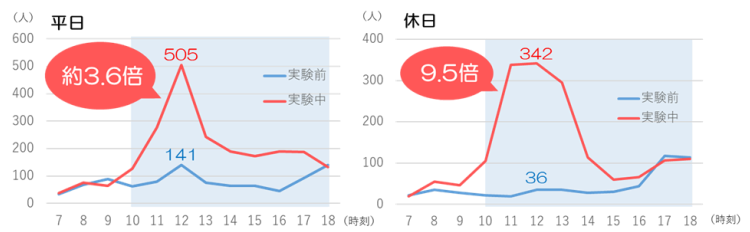


■イベントの開催

(動くクルマ、アイドル、音楽ライブなど)
R4：4回 R5：9回



横断歩道の歩行者交通量の変化



来場者アンケート

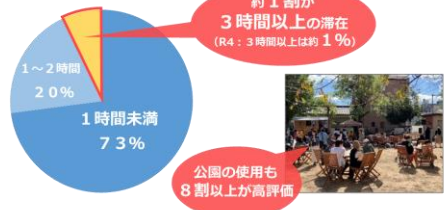
■キッチンカー・物販の出店について



■土日のイベントについて



■滞在時間について



来場者の声がありました

キッチンカー等の利用者
「次回はいつするの?」「津駅前が明るくなった!」

沿線住民
「街が賑わうと元気が出る」「ぜひ続けてほしい」

出店事業者
「また出店したい (出店事業者全員)」

社会実験の概要

目的 公共交通を補完する交通手段としてのニーズがあるかを確認

内容 県道津停車場線及び津駅東口ロータリーにカーシェアステーションを合計4台設置

期間 令和7年1月21日～7月21日の半年間



成果

公共交通機関を補完する交通手段としての**ニーズは非常に高い**ことが確認できた。

⇒ **交通結節機能強化施策の1つとして取り込める可能性**

県外からの来訪者
 鉄道利用者
 駅近
 わかりやすさ

今後の検討課題

設置検討 (設置可否、設置場所など) と安全対策

⇒ 施設の運営・維持管理も視野に入れた検討

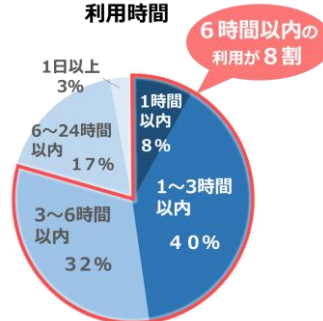
利用実績

- ・1月21日～7月21日 (182日間) で**769人**、延べ**1,034回**の利用
- ・路上カーシェアリング1台当たり**平均1.5回/日**の利用

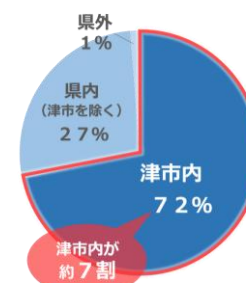
周辺の既存カーシェアの約**1.3倍!**

GPSデータの分析

利用時間

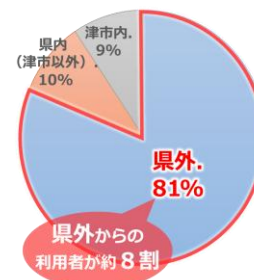


エリア (目的地)

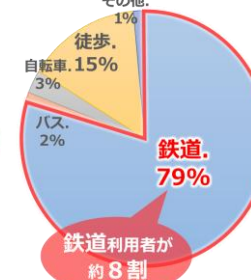


利用者アンケート

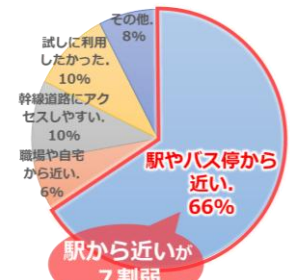
アンケート回答者住所



利用までの交通手段



利用の理由



その他利用者からの声

【良かった点】

- ・鉄道からの乗り換えが非常に便利
- ・津駅がビジネスや観光の起点として機能するきっかけになる
- ・路上駐車防止になる など

【悪かった点】

- ・チェーン着脱が煩わしく、危険
- ・路上 (県道) は使いにくい など